

特集「ヘルスケア×知財」の企画にあたって

会誌広報委員会*

我々は、過去4年間の特集号において「知財」という概念の拡がりと可能性をテーマに論じてきました。ここには、第4次産業革命という大きな動きがあることだけでなく、日常的に遂行している知財関連業務が急激に変化していることを意識した上での我が国における知財の方向性を探求する意図が込められていました。

その結果として、知財業務の対象範囲の拡大を促す「知財」という概念自体のドラスティックな変化や、将来の知財戦略ビジョンを描く際に今まで以上に世界を意識する必要性を種々の観点から提言できたと考えております。

このような「知財」と特定の分野との関係性を深掘りし検証することは、社会全体が目まぐるしく変革する現在において非常に大きな意義を持つのではないかと考えました。その特定の分野について様々な観点から議論を尽くした結果、「ヘルスケア」が相応しいという結論に至りました。その理由として、Society 5.0時代の中で「ヘルスケア」が「知財」と同様、その概念を拡大化、高度化させつつあり、今まで以上に様々な領域において重要視されつつある点が挙げられます。また、従前の南北問題からCOVID-19の甚大な影響を被る現状に至るまで、この二つのキーワードの相関は継続して注目を浴びている点も挙げられます。

そこで、今まさに注目を浴びる「ヘルスケア」分野を軸として、知的財産権の本質である独占排他的思考を超えた「知財」の新たな活用や担うべき役割を提言すべく、本特集ではメインテーマを「ヘルスケア×知財」に設定しました。このメインテーマを読み解くにあたり我々は「デジタルヘルスケア」、「バイオ・ゲノム分野における知財戦略」、「公衆衛生」という3本の柱を立てました。この3本の柱を以て、「ヘルスケア」と「知財」をクロスオーバーさせ、「ヘルスケア」の変革に新たな「知財」はどのように関わるべきか有益な情報と積極的な提言を提供しております。

本号では特集号初となる企業インタビューも実施し、より会員企業目線に近いコンテンツを意識しております。ヘルスケア業界に限らず、広く会員企業にとって必ずや新たな気づきと知見を与える特集であると確信しております。

●総論

(1) ヘルスケアの未来と知財

ヘルスケアと知財をクロスオーバーしたときに見えてくる現状とあるべき姿を、「デジタルヘルスケア」、「バイオ・ゲノム分野における知財戦略」、「公衆衛生」という3本の柱から俯瞰して解説頂く全体の総論的位置づけとなっております。

* 2020年度 Publication and Public Affairs Committee

●第1の柱「デジタルヘルスケア」

(2) デジタルヘルスの技術開発・政策動向と知的財産戦略の論点

疾患フェーズやソリューションの分類といった基本的事項を含むデジタルヘルスの論点全般について、日本のみならず世界各国の政策も視野に入れて解説頂いております。

(3) デジタルテクノロジーの進展と医療ヘルスケアのパラダイムシフト

ヘルスケアデータの利活用に焦点を当てつつ、いくつかの具体的な取り組み事例とともに医療ヘルスケアにおけるデジタルテクノロジーの活用の進展を解説頂いております。

(4) ヘルスケアデータの利活用と個人情報保護制度

ヘルスケアデータ・医療に関する個人情報保護のための複数の法律の適用範囲、対象そして限界につき解説しつつ、さらなるデータ利活用促進に向けて提言頂いております。

(5) デジタル機器を活用した介護・福祉の現状と展望

排泄予測デバイスの開発企業へのインタビューから、その開発経緯、各国事情に鑑みた事業化、知財戦略の考え方などを引き出し、身近なビジネスチャンスをも再認識させる好例を提示しています。

(6) ヘルスケア分野におけるゲーミフィケーションと異業種間協業

医薬企業と運動支援アプリの共同開発を行っているゲーム企業へのインタビューを経て、潜在的なゲーミフィケーション意識と「楽しく健康維持」という観点からの企業活動を掘り起こしています。

●第2の柱「バイオ・ゲノム分野における知財戦略」

(7) 日本における医療イノベーションの促進に向けて

アカデミアにおける課題や橋渡し支援施策に重点を置きつつ、産学連携等の日本の医療分野におけるイノベーション・エコシステムの現状について解説頂いております。

(8) 再生医療分野における特許戦略と事業戦略の新しい実践的枠組の考察

低分子医薬品の時代には存在し得なかった再生医療分野固有の知財戦略について、基盤技術のライセンスイン戦略をはじめ複数の観点から解説頂いております。

(9) ゲノム医療分野における知財戦略ーゲノムデータベースの利活用の観点からー

今後の知財戦略に必要な特許ポートフォリオの例示を含め、日本および国内企業がゲノムデータベースを構築するときの意義や差別化のポイントを具体的に解説頂いております。

●第3の柱「公衆衛生」

(10) COVID-19パンデミックにおける公衆衛生と特許

TRIPS協定の沿革や、各国における強制実施権と自発的取組みの両アプローチの現状分析、政府使用の導入など、最新動向から将来展望までアカデミアの視点で分かりやすく論じて頂いております。

(11) 新型コロナウイルス感染症と知財制度

新型コロナウイルス感染症に関して、公衆衛生、ワクチンの早期開発と頒布に対する国内外の政府および製薬企業の動きを、産業界からの視点で解説頂くだけでなく提言もして頂いております。